

## カンボジアにおける第1回 AWD-JCM 有識者委員会の概要

### 1. 日時・形式

開催日：令和8年4月24日（金曜日）13時00分～15時30分（カンボジア時間）

15時00分～17時30分（日本時間）

形式：オンライン

### 2. 概要

令和8年4月24日、カンボジアにおいて、水田から排出されるメタン削減に資する間断かんがい（Alternate Wetting and Drying：AWD）技術と二国間クレジット制度（Joint Crediting Mechanism：JCM）を組み合わせる方法論を開発するため、カンボジア政府や日本政府をはじめ、国際機関や研究機関（別添参照）が参集し、第1回有識者委員会（Expert Committee：EC）をオンラインで開催しました。

本会合は、令和7年2月に日本・フィリピン両国政府により承認されたAWD-JCM方法論（以下「フィリピン方法論」という。）を横展開させるため、カンボジアの実情に最も適した方法論を開発するための技術的検討を行うことを目的として開催されたものです。

カンボジアをはじめアジア地域においては、水田から排出されるメタン等の温室効果ガス（GHG）排出削減が大きな課題となっており、コメの生産に影響を与えない持続可能な水田農業の実現に向けた取組が進められています。カンボジアにおけるこうした取組を一層促進させるため、ECでは、コメの収量を減少させずにメタンなどGHG排出量を削減させるAWD技術とJCMの民間ファイナンス機能を組み合わせる取組を実現させる方法論の開発に着手しました。

本会合では、フィリピン方法論の概要及びその知見を共有するとともに、カンボジアにおけるAWDの普及状況、国家インベントリや国が決定する貢献（NDC）におけるAWDの位置付けやカンボジアにおける脱炭素制度整備状況等について共有されました。その上で、カンボジアの気候・農業・かんがい設備の現状等を踏まえつつ、透明性・信頼性の高いクレジットが創出され、また利便性も高い実用的な方法論を開発する必要性が認識され、今後、方法論開発のための論点整理や必要なデータ収集を進めながら、カンボジアを取り巻く国内外の状況に応じて柔軟に検討を進めていくこととしました。

### 3. 主な議論

本会合では、主に以下の論点について意見交換が行われました。

- ・ カンボジアの方法論開発に当たっては、フィリピン方法論等の既存の方法論を参照しつつ、様々なデータに基づく科学的根拠に基づいて検討する必要があることに加え、カンボジア特有の状況を十分配慮して検討することが、その方法論に基づいて創出されるクレジットの信頼性を高めることにつながる。
- ・ AWDの適格条件は、カンボジア特有の気象・土壌条件の他、既存プロジェクトの実測データなどを踏まえながら慎重に検討する必要があること。
- ・ カンボジアでは現在AWDはほとんど普及していないが、その潜在的な適用可能性は大

きく、GHG 排出削減に大きく貢献できること。また、クレジット収入の一部還元だけでなく、コメの付加価値が向上するなどにより、現地農家の所得向上にも大きく貢献できること。

- ・ 技術的進歩が著しい衛星リモートセンシングの活用は、プロジェクトのモニタリング効率化に貢献する一方、その技術的な限界も依然として存在するため、その双方をよく認識した上で方法論開発を進める必要があること。
- ・ 方法論開発に当たっては、カンボジア政府内の情報共有を通じた各省庁との連携促進のみならず、民間事業者等との連携を強化させることも重要であること。

(以 上)